



発行所 三崎港報社
 三浦市三崎4丁目11番5号
 郵便番号 238-0243
 電話(881)5245番(代表)
 購読料 1ヵ月1800円 1部70円
 郵送 1ヵ月3500円(前納)
 営業広告 1段1センチ 700円
 特別広告 別規定による
 (広告料はすべて前納)

明日の潮時	
2月22日(金曜日)	
旧1月13日(中潮)	
◇満潮	04時00分 14時40分
◇干潮	09時10分 21時20分

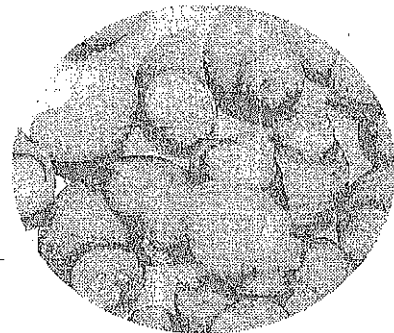
「にじいろさかな号」船上から特別課外授業 岸壁保全工事見学し サザエの稚貝を放流

三崎小学校3年生



船上から鈴木組の工事現場を見学した3年生

三崎小学校3年生が21日「にじいろさかな号」に乗船した。この屋外授業は(株)鈴木組、神奈川県真鶴町が地域貢献の一環として企画したもので、みうら漁業協同組合、(財)神奈川県栽培漁業協会、(株)三浦海業公社がサポートした。風や波が穏やかな海上から「元気に大きくなってね」と声をかけながら稚貝を放流。澄んだ海中を泳ぐ魚たちの姿に船内は歓声に包まれた。



この特別授業は三崎漁港で行われている土木工事や三浦の漁業最前線、栽培漁業の様子などを自分たちの目で直接感じてもらうのが目的。鈴木組は海洋土木工事、石材採取・販売を行っているが、企業の社会的な責任を果たそうと同社が企画した。現在、北条湾内の日の出2号係船岸壁保全工事を神奈川県から受注し、工事の様子などを実際に見てもらった。

船上で同社技術顧問の力石三喜夫さんたちが工事の概要などを説明した後、児童たちが質問した。子どもたちからは「工事期間や安全対策、使用される重機などについて聞かれ、力石さんたちは「干満の差が2メートルあり、夜間に工事することもある。岸壁の工事は約半年行われるが、事故が起きないように努めている。工事に

はクレインやトラックなどを使用すると答えた。工事現場では多くの従業員が作業中で、児童たちは作業員に「頑張ってください」と大きな声をかけると、作業員も手を振って応えていた。

湾内に停泊した船上では2班に分かれて放流。透明度の高い海中をゆっくり沈んでいく稚貝や海草、周囲を泳ぐ魚が船に近づくと歓声が上がっていた。同校の大和校長によると「にじいろさかな号に乗船した児童は多いが、海上から工事現場を見学したり、サザエの稚貝を放流したのは初めて。貴重な体験だった」と話している。

この後、宮川湾へ舵を取った「にじいろさかな号」の船上では栽培漁業協会の今井専務理事が栽培漁業と養殖事業の違い、サザエの産卵から放流や漁獲までの流れを説明し、「放流する稚貝は昨年7月に産卵し、約8ヵ月で体長2センチほどに育った。放流してから2、3年後には漁獲され、みんなの食卓を飾る」と解説した。

なお、乗船する前、学校ではみうら漁協の藤村惨事がマグロ漁業を中心に「三浦の漁業」について解説した。【写真】船上から稚貝を放流する児童とサザエの稚貝。